

阪南市埋蔵文化財報告 XXI

阪南市埋蔵文化財発掘調査概要 XI

1996年

阪南市教育委員会

## はしがき

阪南市は、公園整備事業、レジャー・レクリエーション施設建設事業、交通事情改善の為の道路建設事業、上・下水道整備事業等、市民のための「まちづくり」を実施しなければなりません。当然、それらを実施するためには、埋蔵文化財に影響を与えることは避けることのできない事実です。埋蔵文化財保護行政とは、それらの関係機関と連携をとり、埋蔵文化財に与える影響が最小限になるように努めていかなければならないと考えております。文化財保護行政の役割として、本市に存在する様々な文化財を「保存・公開・活用」しなければなりません。その為、市独自の文化財保護条例の設置や、博物館、郷土資料館等の公開施設の建設が急がれます。

本報告書は、国庫補助事業として営利を目的としない個人住宅・農業用倉庫の建築等の工事に先立って実施したものです。現在、私たちが行っている行政発掘調査（緊急発掘調査）は、記録保存という「最低限の保存」であります。土木工事等の開発行為によつて埋蔵文化財（遺構・遺物）が破壊等の影響を受ける部分について行われています。

ここにその成果を報告いたします。

最後になりましたが、調査に協力くださった土地所有者をはじめとする関係者の方々に感謝の意を表するとともに、今後とも文化財保護に、ご理解、ご協力をお願ひいたします。

1996年3月

阪南市教育委員会  
教育長 庄司菊太郎

## 例　　言

1. 本書は、阪南市教育委員会が、平成7年度国庫補助事業として計画し、社会教育課が担当、実施した阪南市内遺跡発掘調査概要報告書である。
2. 調査は、阪南市教育委員会社会教育課三好義三、田中早苗、上野仁を担当者として実施した。
3. 本書内に示した標高はT.P.であり、方位は既成の地形図等を使用したものと除いて磁北である。
4. 調査にあたっては調査地の土地所有者等関係者各位の理解と、協力を得た。
5. 本書の執筆、編集は上記の担当者が行った。また、実測図等の作成は、下記の調査従事者による。
6. 本調査における記録は、実測図面、写真、カラースライド等に保存されている。当教育委員会に保管されているので、広く活用されたい。

### (調査従事者)

宇沢克之、辻野 勝、伊庭 勉、甲斐 易、和田旬世、井上祥子、村上亮平、中橋 泉、丹羽 徹、井上 進、新矢和広、外池美渡里、室谷順子、森下博司、木村真喜、堀田育代、加旗左智子、福森由記

## 目 次

|               |           |    |
|---------------|-----------|----|
| 第1章 調査に至る経過   | 1         |    |
| 第2章 歴史的環境     | 2         |    |
| 第3章 調査の成果     |           |    |
| 第1節 尾崎海岸遺跡    | 9 5 - 1 区 | 5  |
|               | 9 5 - 3 区 | 7  |
| 第2節 福島遺跡      | 9 5 - 1 区 | 8  |
| 第3節 馬川遺跡      | 9 5 - 2 区 | 8  |
| 第4節 神光寺（蓮池）遺跡 | 9 4 - 3 区 | 9  |
|               | 9 5 - 1 区 | 10 |
|               | 9 5 - 2 区 | 11 |
|               | 9 5 - 3 区 | 12 |
| 第5節 下出遺跡      | 9 4 - 1 区 | 13 |
| 第6節 向出遺跡      | 9 5 - 1 区 | 13 |
| 第7節 波有手遺跡     | 9 5 - 1 区 | 14 |
|               | 9 5 - 2 区 | 15 |
| 第8節 鳥取南遺跡     | 9 5 - 1 区 | 16 |
|               | 9 5 - 2 区 | 16 |
| 第9節 西鳥取遺跡     | 9 5 - 1 区 | 17 |
| 第10節 箱作今池遺跡   | 9 4 - 3 区 | 21 |
|               | 9 5 - 1 区 | 24 |
|               | 9 5 - 3 区 | 24 |
|               | 9 5 - 4 区 | 25 |
|               | 9 5 - 6 区 | 25 |
| 第11節 田山遺跡     | 9 4 - 4 区 | 26 |
|               | 9 5 - 1 区 | 27 |
|               | 9 5 - 2 区 | 28 |
| 第4章まとめ        |           | 28 |

## 第1章 調査に至る経過

阪南市は、大阪府の南西部にあり、大阪府の中心部から距離にして約40km、公共の交通機関を利用して、1時間弱の地点に位置する。地勢的には、東西に約8km、南北に約6km、面積は36.05km<sup>2</sup>の市域を有し、その南側には和泉山脈があり、市域の約4分の3が山地となっている。

市域では、1996年度に『阪南スカイタウン』の「まちびらき」が行なわれ、開発に関連する上・下水道、道路等の工事が急速に行われ、それに伴い発掘調査件数が増加された。また箱作地区は、土地区画整理事業に伴い、同様に関連の工事に伴う発掘調査件数が増加された。今後、事業地内において、民間の開発に伴い発掘の届け出が増加されるであろう。民間による区画整理事業も予定され、それに伴う発掘調査も現在行われている。

近年、行なわれている開発という行為の中で、井山城、ミノバ石切場等をはじめとする多くの遺跡が失われているという事実がある。

本市では、1985年度より、国庫補助事業として、個人住宅・農業用倉庫等の建築工事に先立って調査を実施している。本書では、11遺跡、23ヵ所の発掘調査を実施した。以下に、その概要の報告を行なう。



第1図 阪南市位置図

## 第2章 歴史的環境

阪南市は、大阪平野の南部に位置する。北を大阪湾、南を和泉山脈に囲まれ、市域の4分の3を山地が占めている。その山地から派生する丘陵部の間を、北から男里川、花折川、釈迦坊川、茶屋川、田山川等が大阪湾に流れ込み、それぞれ沖積地や段丘を形成する。その沖積地や段丘は、現在、人々の生活区域であり、また、埋蔵文化財包蔵地とそのほとんどが一致する。調査成果から見られる遺跡の概要を時代別に以下に述べる。

縄文時代としては、神光寺（蓮池）遺跡から、「柳又型」と呼ばれる縄文時代草創期と思われる幅の広い有茎尖頭器が採取されている。また、馬川北遺跡から後期～晚期、高田遺跡からは縄文時代晚期の土器が、玉田山、自然田、向出、貝掛、箱作今池、田山遺跡で石錐が出土している。

弥生時代としては、神光寺（蓮池）遺跡から中期の方形周溝墓等の遺構が検出され、中期の土器をはじめとして、石包丁、石錐等の遺物が、馬川、馬川北、久保田、鳥取南等の遺跡から、後期の土器が出土している。住居跡等は確認するに至っていないが、尾崎海岸遺跡において弥生時代末期～古墳時代初期の製塩土器等の遺物を含む遺構が検出され、生産遺跡の性格がうかがえる。

古墳時代としては、茶屋川左岸に築造された小型の帆立貝式前方後円墳の箱作古墳と、現在の市役所の位置に皿田池古墳の2基が中期の古墳として存在していたことが資料等からうかがえるが残念ながら、現存はしていない。また、高田山古墳群、塚谷古墳群、玉田山古墳群が後期の古墳として揚げられるが、現存するものは玉田山古墳群のみで、調査が実施された1号墳からは、須恵器長頸壺、金環、琥珀製棗玉等多数の副葬品が出土している。

奈良時代としては、波有手遺跡から、多数の製塩土器と共に「海」「水」「省」「佐土」等と記された墨書き土器が30数点、土坑や溝等から出土している。また、田山遺跡から須恵器、土師器等の生活雑器や多数の製塩土器が出土し、農漁村では見られない円面硯、墨書き土器等の遺物が出土している。ほかには、貝掛遺跡から奈良三彩長壺が出土している。

平安時代としては、馬川遺跡から、当時の複弁連華文軒丸瓦が出土している。ほか、その南に位置する平野寺（長楽寺）跡からも、同時期の複弁連華文軒丸瓦、均整唐草文軒平瓦が採取されている。これらの事実や伝承等から、当時、上記の遺跡周辺に寺院の存在が想定される。

中世期になると、ほとんどの遺跡において、遺構、遺物を検出することができるが特徴を揚げると田山遺跡と井山城がある。

田山遺跡では、鎌倉・室町時代のものとして、瓦器の塊・皿、瓦質羽釜等の生活雑器とともに、蛸壺、土錐等の漁撈関係の遺物が出土し、蛸壺、土錐を焼いたと思われる土坑等も検出され、農村と漁村の性格をあわせもつ村落の存在を推定することができる。また、同時代の遺物と共に多くの輸入陶磁器が出土していることも特質として揚げられる。前述の蛸壺焼成遺構と同様の遺構は、馬川、田山東遺跡においても検出されている。

南北朝時代の山城である井山城は、在地領主の残した「軍忠状」等の文献史料等によ

って、飯ノ峯川流域の山地にその存在が想定されていた。関西国際空港建設に伴う阪南丘陵開発の事前調査により、丘陵頂部・斜面において、中世の山城の特徴である土手や石垣等の曲輪状遺構、礎石建物跡、土師器、瓦器、瀬戸焼の碗等の遺物が出土し、これらから中世の山城の存在が考古学的にも実証されることになった。

近世期になると当時の絵地図をはじめとする史料等から、尾崎、下出、黒田、新、波有手、石田、中、自然田、山中、桑畑の村々が「鳥取庄（鳥取郷）」としてまとまり、箱作、貝掛、舞の村々と後に開発された山中新田が加わり「下ノ庄（下荘地区）」としてまとまり、あわせて14カ村が存在していたことがわかる。

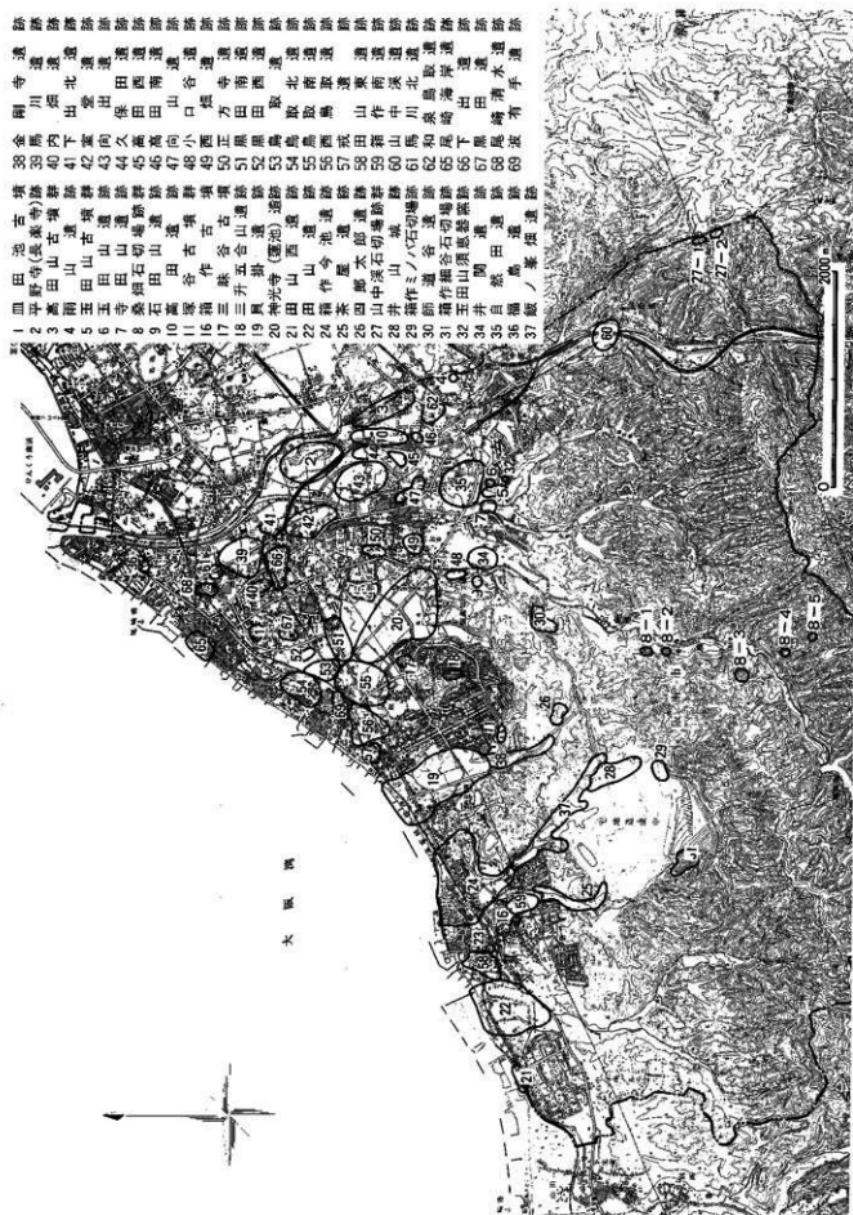
上記の近世期の村のうち、明治期に廃絶した「舞村」が、絵図をはじめとする文献資料から知られ、貝掛遺跡の調査によって考古学的に実証された。遺構は、鍛冶炉と思われる焼けた形跡がある土坑と建物跡、遺物は近世陶磁器（伊万里、瀬戸、唐津、備前等）が確認されている。

この時期様々な産業が栄えたが、その中で調査によって実証された遺跡として、和泉砂岩の採掘場であるミノバ石切場が揚げられる。石切場と確認できる採掘坑がみられ、遺物は、ノミ、サキノミ、ヤ等加工用の鉄製品や、石臼、茶臼、手洗鉢等の製品、未製品が多量に出土している。石切場等で仕事をしていた「石工」の存在は、『和泉名所図絵』や全国各地に存在する石造物の銘文からうかがえる。

以上が、本市における埋蔵文化財を中心とした歴史的環境の概要である。以下の章においては、本年度の国庫補助事業とともに調査の成果を報告する。

#### （参考）

|                           |       |
|---------------------------|-------|
| 『阪南町史』 上巻 阪南町             | 1983年 |
| 『阪南町史』 下巻 阪南町             | 1977年 |
| 『田山遺跡』（財）大阪文化財センター        | 1983年 |
| 『田山・神光寺遺跡発掘調査概要』阪南町教育委員会  | 1986年 |
| 『井山城跡』（財）大阪府埋蔵文化財協会       | 1986年 |
| 『貝掛遺跡』（財）大阪府埋蔵文化財協会       | 1986年 |
| 『阪南市埋蔵文化財発掘調査概要Ⅶ』阪南市教育委員会 | 1992年 |
| 『阪南市埋蔵文化財発掘調査概要Ⅷ』阪南市教育委員会 | 1993年 |
| 『阪南市埋蔵文化財発掘調査概要Ⅸ』阪南市教育委員会 | 1994年 |



## 第2図 阪南市内埋蔵文化財分布図

## 第3章 調査の成果

### 第1節 尾崎海岸遺跡

尾崎海岸遺跡は、近世期に浜（孝子越）街道の町場として栄えた尾崎村と重なる。1991年の住宅建築工事の折に発見周知された遺跡である。この調査（90-1区）では、砂地に焼けた石が敷き詰められ、弥生時代末期から古墳時代初頭の製塩土器、蛸壺等遺物が多数散乱していたことが確認された。

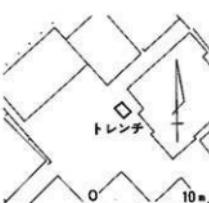
#### 95-1区

##### a. 調査の概要（第3～5図）

調査区は、本遺跡の中央部、現海岸線より40mの場所に位置する。調査は、調査区内北部に1m×1.5mのトレンチを設定して行った。基本層序は、第1層盛土以下、第2層暗灰色砂質土、第3層茶褐色砂、第4層明茶灰色砂の無遺物層であった。遺構は検出されず、遺物は第2層から、土師質鉢、土師質管状土錘、瓦、陶器、磁器等を、第3層より土師質土器が出土した。



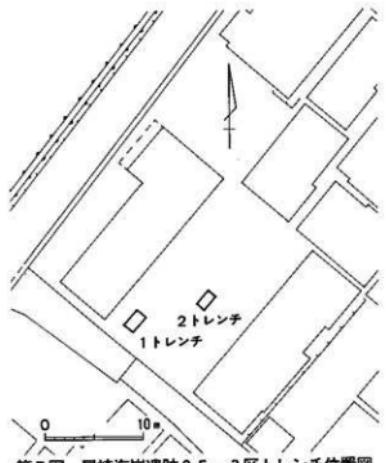
第3図 尾崎海岸遺跡調査区位置図



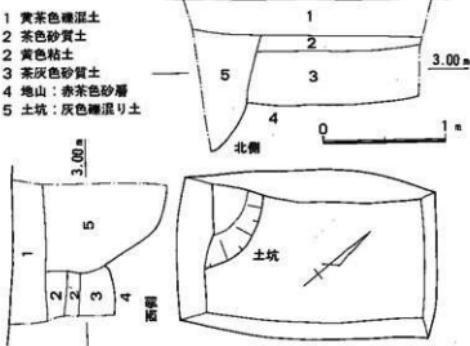
第4図 尾崎海岸遺跡  
95-1区トレンチ位置図



第5図 尾崎海岸遺跡  
95-1区東断面図



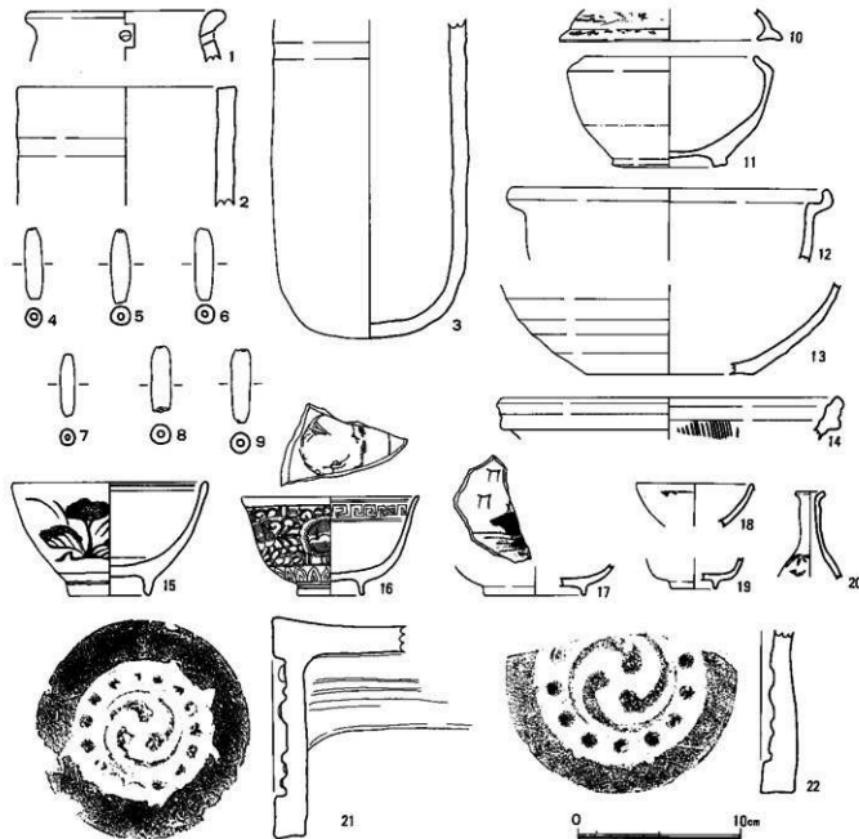
第7図 尾崎海岸遺跡 95-3区トレンチ位置図



第8図 尾崎海岸遺跡 95-3区 1トレンチ平面図・北、西側断面図

b. 遺物（第6図）

1は土師質土器の壺の口縁部、2は土師質銷壺の口縁部、3は土師質銷壺の底部が丸いもので、共に近世期以降のものと思われる。4～9は土師質管状土錐、10～14は陶器で、10は蓋の口縁部、11は壺、12・13は鍋で12は口縁部、13は底部、14は摺鉢の口縁部である。15～20は染め付けの磁器で15・16は碗で、17は皿の底部、18・19は湯飲み碗で18は口縁部、19は底部、20は瓶の口縁部である。21・22は巴文軒丸瓦で瓦当から近世期のものと思われる。



第6図 尾崎海岸遺跡9-1区出土遺物

### 95-3区

#### a. 調査の概要（第3・7図）

本調査区は尾崎海岸遺跡の北端部に位置する。1.2m×2m及び1m×1.8mのトレンチを設定し、前者を1トレンチ、後者を2トレンチとして実施した。基本層序は図示の通りであるが、自然堆積ではなく近世期以降の整地層と思われる。

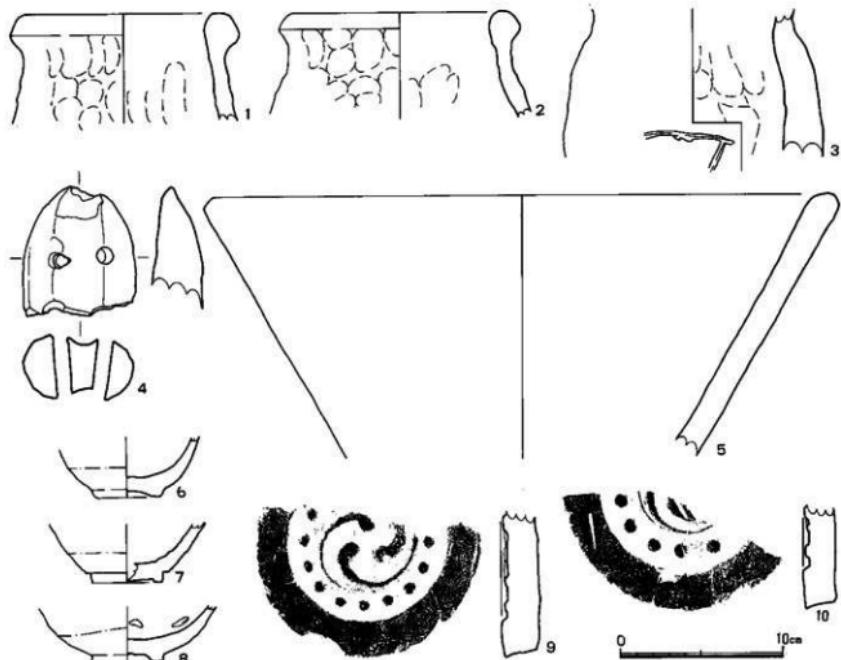
#### b. 遺構（第8図）

##### -土坑-

1トレンチの北西角に位置し、径55cm以上、深さ1mを呈する。埋土は灰色疊混土であった。遺物は、土師質蛸壺・有溝土錘をはじめとする漁撈関係遺物の他、炮烙等の土師質土器、瓦等が出土した。

#### c. 遺物（第9図）

1～3は土師質の蛸壺。いずれも中世期のものと思われる。3にはヘラ記号が見られる。4は土師質土錘。比較的大型の網に付けられていたものと想定される。5は近世期の土師質土器の鉢と思われる。底部が欠損している。市内では馬川遺跡で同種の鉢が出土しており、それには底部中央に径2～3cmの穴が穿ってあり、近年の植木鉢のような形態である。6～8は陶器で、うち7・8は天目茶碗。8の内面見込部には胎土目が見られる。9・10は軒丸瓦。共に近世期以降のものである。1～9は1トレンチから、10は2トレンチから出土した。



第9図 尾崎海岸遺跡95-3区出土遺物

## 第2節 福島遺跡

福島遺跡は、1990年度の公共工事により、発見周知された遺跡である。本市の北端部、男里川の左岸に位置する。往年の調査では、遺構は検出されていないが、土師器、土師質土器、蛸壺等中世期の遺物が出土している。

### 95-1区

#### a. 調査の概要（第10～12図）

調査区は、本遺跡の南端部に位置する。調査は調査区内南端に1m×2mのトレンチを設定して行った。基本層序は、第1層耕作土、第2層淡茶色土、第3層淡茶灰色土の無遺物層であった。遺構は検出されず、遺物は、近現代と考えられる摺鉢を第1層から検出した。

## 第3節 馬川遺跡

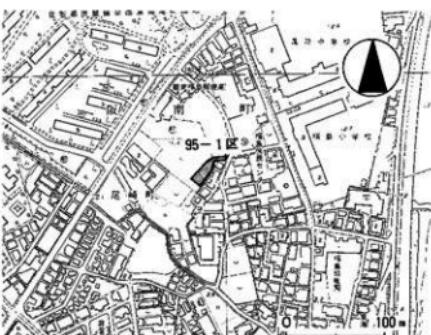
馬川遺跡は、本市の東端部を南北に流れる男里川が形成する扇状地に位置する。1987年度実施の分布調査によりサヌカイト片、土師器、須恵器等が採取され、縄文時代以降の遺跡の存在が想定されていた。既往の調査では、本遺跡の西部の調査区で蛸壺を焼いたと思われる土坑を、南部の調査区で複弁連華文軒丸瓦が出土している。

本年度は、下記以外の調査で、溝等の遺構を検出し、土師器、須恵器、黒色土器、磁器等の遺物が出土した。

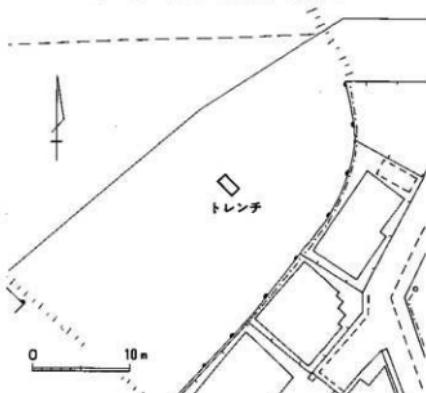
### 95-2区

#### a. 調査の概要（第13～15図）

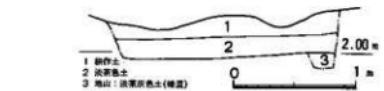
調査区は、本遺跡の北端部に位置する。調査は、調査区内中央部に3m×2mのトレンチを設定して行った。基本層序は、第1層盛土以下、第2層褐灰色土、第3層灰濃茶色土、第4層暗茶濃灰色土、第5層黄



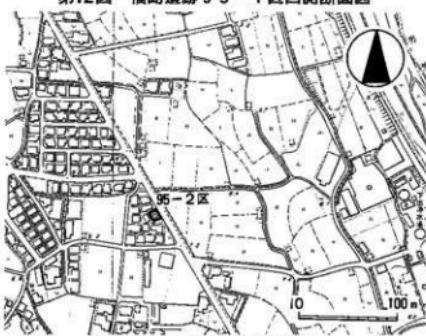
第10図 福島遺跡調査区位置図



第11図 福島遺跡95-1区トレンチ位置図



第12図 福島遺跡95-1区西側断面図

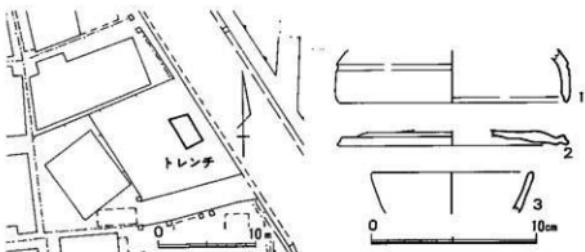


第13図 馬川遺跡調査区位置図

褐色粘土の無遺物層であった。遺構は検出されず、遺物は第2層から、土師器、須恵器、瓦器、第3層から土師器、須恵器、第4層より土師器が出土した。

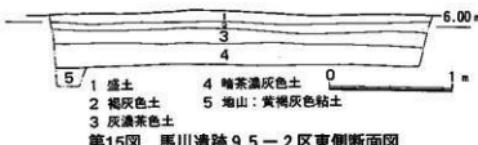
#### b. 遺物（第16図）

1・2は須恵器の壊蓋で、3は須恵器の壊身である。2は第2層、1・3は第3層から出土した。



第14図 馬川遺跡95-2区トレンチ位置図

第16図 馬川遺跡95-2区出土遺物



第15図 馬川遺跡95-2区東側断面図

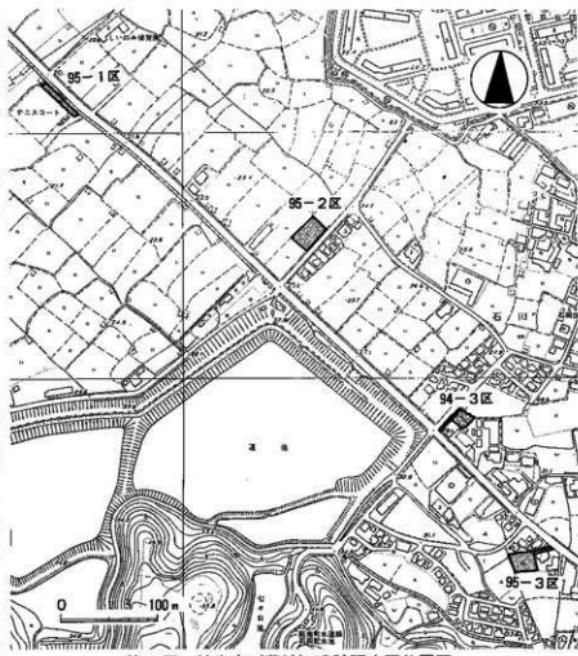
### 第4節 神光寺(蓮池)遺跡

神光寺(蓮池)遺跡は、本市の中央部に位置する。遺跡の特徴をあらわすものとしては、縄文時代草創期と思われる有茎尖頭器が採取され、弥生時代中期の方形周溝墓、中期の土器や石包丁が検出されている。また、遺跡の南部には、式内社波太神社があり、その神宮寺が明治時代まで存在していたことが知られている。

#### 94-3区

##### a. 調査の概要（第17・18図）

本調査区は神光寺(蓮池)遺跡のほぼ中央部に位置する。調査区のすぐ北側では、方形状周溝墓が確認されている。調査は、1.5m×2.5mのトレンチを設定して実施した。第1層盛土、第2層耕作土以下の基本層序は、第3層明灰色土、第4層黄茶褐色粘土、第5層明黄白色礫混粘



第17図 神光寺(蓮池)遺跡調査区位置図

土の無遺物層であった。第4層の上面で溝を検出した。遺物としては、土師質土器が数点出土したが、小片のため図示には至らなかった。

### b. 遺構（第19図）

#### —溝—

南東から北西方向に延びる溝。幅約20cm、深さ15cmを呈する。埋土中から土師質土器が出土した。

### 95-1区

#### a. 調査の概要（第17・20図）

調査区は、本遺跡の中央部に位置する。調査は調査区内に9ヵ所のトレンチを設定し実施した。1～4・6・7トレンチの基本層序は、第1層耕作土、第2層床土、第3層灰色土、第4層灰茶色土、第5層黄灰色土、第6層淡茶灰色粘質土、第7層淡灰色粘質土、第8層灰褐色砂混粘質土の無遺物層であった。

#### b. 遺構（第21図）

1トレンチからピット2・3トレンチからは溝、落ち込みを検出した。

#### —ピット1—

径60cm、深さ4cm、埋土は灰黄色土。

#### —ピット2—

径50cm、深さ4cm、埋土は灰黄色土。

#### —溝—

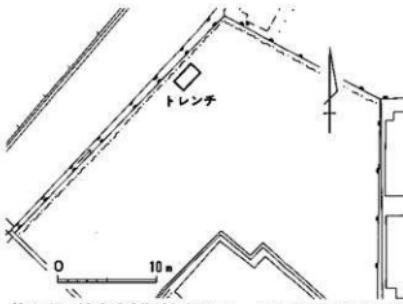
幅20cm、深さ15cm、埋土は灰黄色土。

#### —落ち込み—

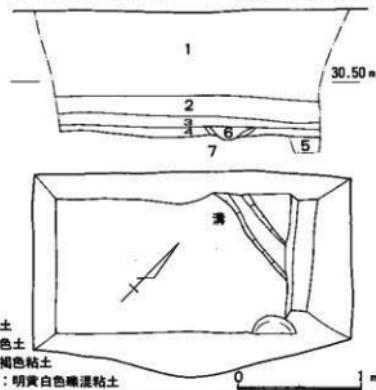
深さ20cm、埋土は、淡褐色土、淡灰色土で東にむかって落ちこんでいる。

#### c. 遺物（第22図）

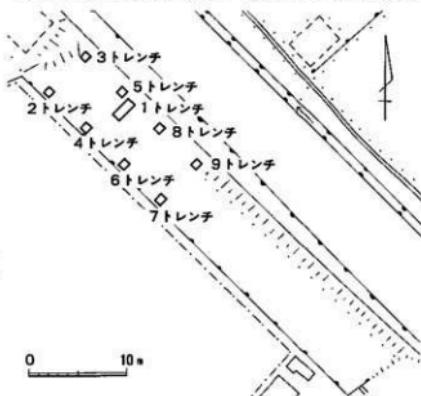
遺物は1トレンチの第3層から土師器、瓦器、第4層より須恵器、製塙土器、3トレンチの溝から土師器、5トレンチの第3層から土師器、磁器が出土したが、図化し



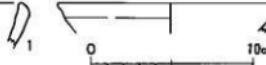
第18図 神光寺(蓮池)遺跡94-3区調査区位置図



第19図神光寺(蓮池)遺跡94-3区平面図・北側断面図



第20図 神光寺(蓮池)遺跡95-1区トレンチ位置図



第22図神光寺(蓮池)遺跡95-1区出土遺物

たのは以下の2点であった。

1は製塙土器の口縁部で  
1トレンチの第4層から、  
2は瓦器塊の口縁部で、1  
トレンチ第3層から出土し  
た。

## 95-2区

### a. 調査の概要

(第17・23・24図)

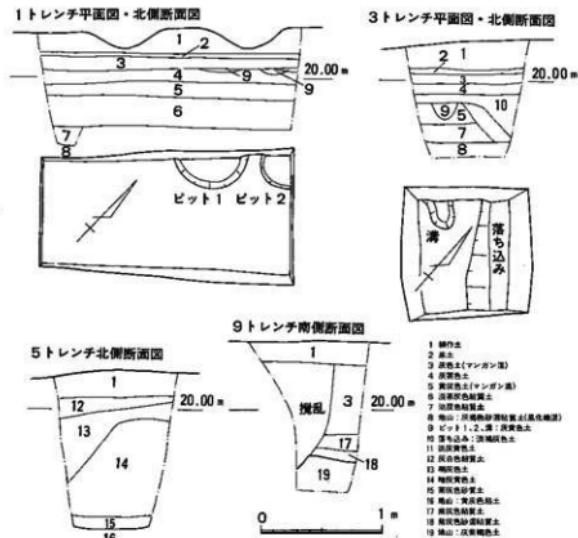
調査区は、本遺跡のほぼ中央部に位置する。調査は、調査区内に3ヶ所のトレンチを設定し実施した。基本層序は、第1層耕作土、第2層床土、第3層黄灰茶色土、第4層淡黄灰色粘質土、第5層暗黒茶色粘土、第6層明黄灰色粘土の無遺物層であった。

### b. 遺物 (第25図)

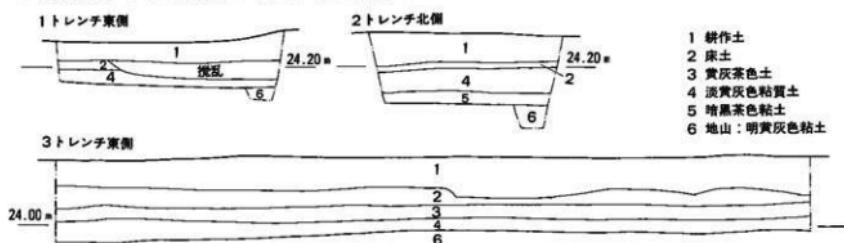
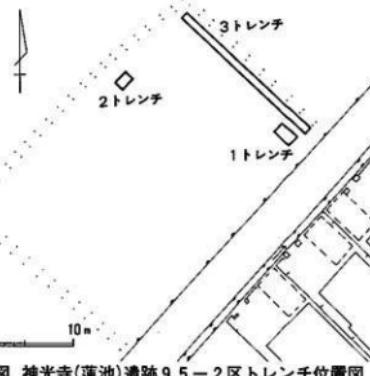
遺物は、1トレンチの第4層から土師器、瓦器、2トレンチの第3層から土師質土器、瓦器、3トレンチの耕作土からチャート、陶器、第3層から土師質土器、陶器、磁器、第4層から土師器、須恵器、瓦器、陶器、第5層から土師器、須恵器、瓦器、東播系須恵質こね鉢、土師質小皿が出土した。図化したのは以下のものであった。

1～3は瓦器塊で、1・2は口縁部で3

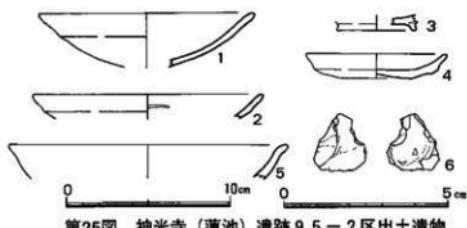
は高台部、4は土師質の小皿、5は陶器の



第21図 神光寺(蓮池)遺跡95-1区平面図・断面図



第24図 神光寺(蓮池)遺跡95-2区1トレンチ東側・2トレンチ北側・3トレンチ東側断面図



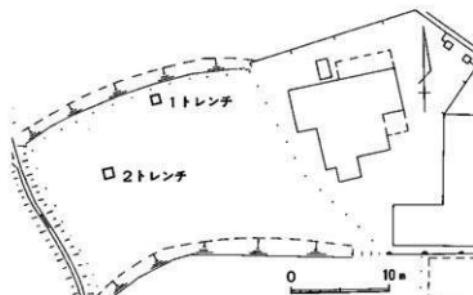
第25図 神光寺(蓮池)遺跡95-2区出土遺物

塊の口縁部、6はチャートの剥片であった。1・2・5は3トレンチの第4層、3は2トレンチの第4層、6は4トレンチの耕作土から出土した。

### 95-3区

#### a. 調査の概要 (第17・26・27図)

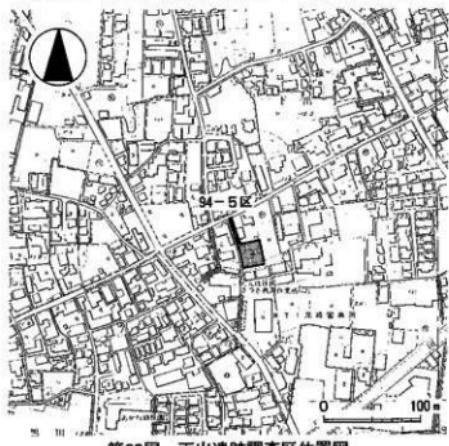
調査区は本遺跡の北部に位置する。調査は、調査区内に1m×1mのトレンチを2ヶ所設定し行った。1トレンチの層序は、第1層耕作土、第2層床土、第3層橙灰白色粘土、第4層橙灰色粘土の無遺物層で、2トレンチの層序は、第1層耕作土、第2層黄白色粘土、第3層灰白色粘土の無遺物層であった。1・2トレンチ共に遺構は検出されず、1トレンチの第3層から弥生式土器とおもわれる遺物が出土したが、細片のため図化し得なかった。



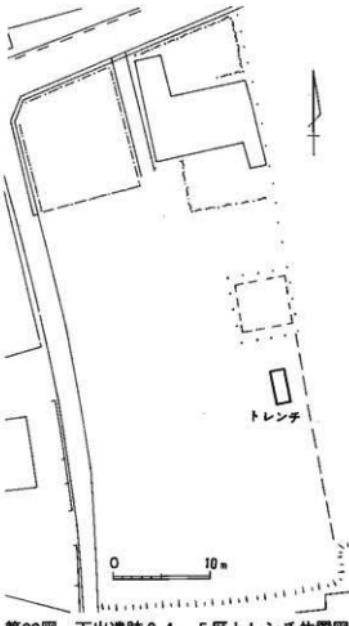
第26図 神光寺(蓮池)遺跡95-3区トレンチ位置図



第27図 神光寺(蓮池)遺跡95-3区東側断面図



第28図 下出遺跡調査区位置図



第29図 下出遺跡94-5区トレンチ位置図

## 第5節 下出遺跡

下出遺跡は、本市のほぼ中央部、馬川遺跡の南西部に位置し、現存する絵図等から近世期の下出村の村域とほぼ一致する。1991年度の民間開発工事に伴う確認調査により発見周知された遺跡である。この調査では瓦器塊を埋納する土坑墓をはじめとして、多数のピットが確認された。また、今回の調査区に隣接する調査では、中世期の遺物とともに輪の羽口が出土している。

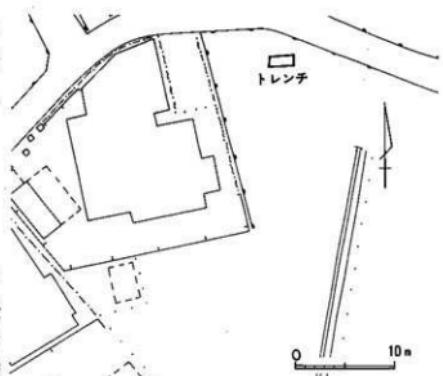
### 94-5区

#### a. 調査の概要（第28・29図）

調査区は、本遺跡のほぼ中央部に位置する。調査は調査区内に1.3m×3.5mのトレチを設定し行った。1.1mの盛土の下は、黄茶色疊混砂質土の無遺物層で、遺物包含層、遺構、遺物は確認されなかった。



第30図 向出遺跡調査区位置図



第31図 向出遺跡95-1区トレチ位置図

## 第6節 向出遺跡

向出遺跡は、男里川支流の兎砥川と山中川に囲まれた段丘上に位置する。分布調査のおりに、縄文時代晩期と思われる土器片をはじめ、サヌカイト製石器、剥片、土師器、須恵器、瓦器等の遺物が多量に採取され、これまでの調査では、遺構としては溝、土坑、ピット等、遺物として須恵器、黒色土器、瓦器、土師質土器等を検出している。

### 95-1区

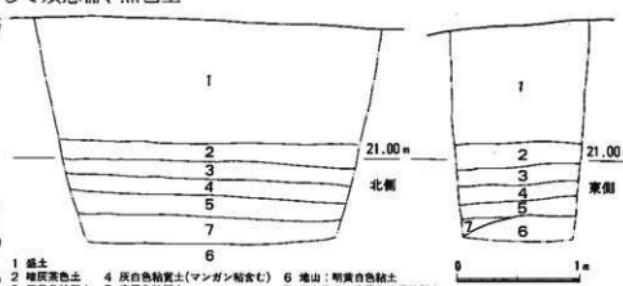
#### a. 調査の概要

（第30・31図）

調査区は、本遺跡の

ほぼ中央部に位置する。

調査は、調査区内北部に



第32図 向出遺跡95-1区北・東側断面図

1.2m×2.6mのトレンチを設定し行った。基本層序は第1層盛土以下、第2層暗灰茶色土、第3層灰茶色粘質土、第4層灰白色粘質土、第5層青灰色粘質土、第6層明黄白色粘土の無遺物層であった。遺構は第6層上面で落ち込みを検出し、遺物は、第2層より須恵器、第3層より瓦質土器、土師質土器が出土したが、図化しえなかった。

#### b. 遺構（第32図）

##### —落ち込み—

第6層上面で検出した。埋土が青灰色疊混粘質土で、深さは20cm以上を測る。

## 第7節 波有手遺跡

波有手遺跡は1992年度の阪南市立西鳥取公民館建設に伴う遺跡確認調査によって発見周知された遺跡である。この調査では、古代（奈良時代以降）、中世、近世の遺構と、それらに伴う土師器、須恵器、製塙土器、黒色土器、瓦器、蜻蛉、土師質土器等数千点に及ぶ遺物を検出した。中でも、数多くの製塙土器と「海」、「水」、「省」、「佐土」等と記された奈良時代の土器の出土が特筆される。

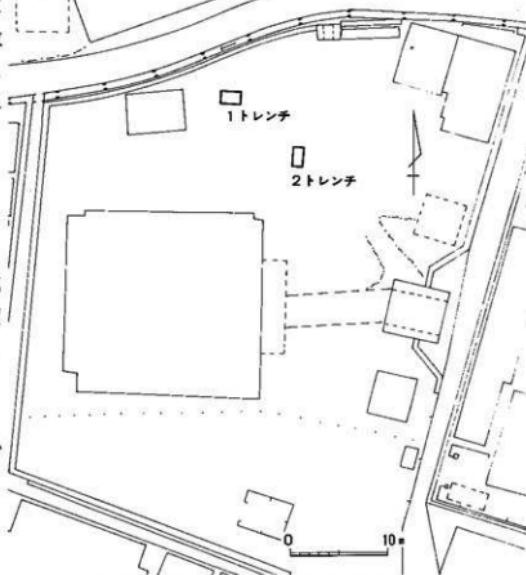


第33図 波有手遺跡・鳥取南遺跡・西鳥取遺跡調査区位置図

#### 95-1区

##### a. 調査の概要（第33・34図）

調査区は、波有手遺跡の北端部に位置し、本遺跡が周知される契機となった92-1区の調査区内に隣接する。調査は調査区内に1.5m×2m及び1.2m×2mのトレンチを設定し、前者を1トレンチ、後者を2トレンチとして実施した。基本層序は、灰茶色土、黄茶灰色土、明茶色土、暗茶黒色土、淡茶灰色土の順であった。1ト



第34図 波有手遺跡95-1区トレンチ位置図

ンチでピットを検出した。両トレンチから須恵器をはじめ、陶器、磁器、土師質土器等と共に大量の近世の瓦が出土した。また、1トレンチからはヘラ記号が記された蛸壺が出土している。なお、この調査後、浄化槽埋設時に立会調査を実施したが、この際には、前述の92-1区における調査で奈良時代の墨書き土器等が出土した遺物包含層の存在を確認し、この層から同時代の須恵器、土師器が出土した。

#### b. 遺構（第35図）

##### -ピット-

1トレンチの南東角、淡茶灰色土上面で検出した。深さ15cm、埋土は暗茶黒色土であった。

#### c. 遺物（第36図）

1・2は土師質で、前者は壺の口縁部、後者は管状土錐である。3・4は磁器で、3は染め付けの碗の口縁部、4は壺の口縁部である。5は小型の道具瓦の瓦当、6は軒平瓦で、共に近世期以降のものと思われる。1・2・5は2トレンチから、3・4・6が1トレンチから出土した。

#### 95-2区

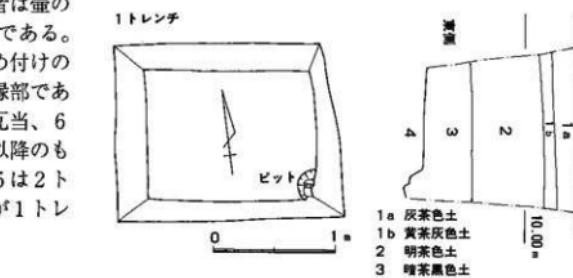
##### a. 調査の概要（第33・37図）

調査区は、本遺跡の北部に位置する。調査は、調査区内南西部に1.1m×1.1mのトレンチを設定し行った。基本層序は、第1層盛土、第2層灰茶色土、第3層黄茶灰色土、第4層明茶色土、第5層暗茶黒色土、第6層淡茶灰色土の無遺物層であった。遺構は、土坑を検出し、遺物は調査区内の表土から磁器を採取したのみであった。

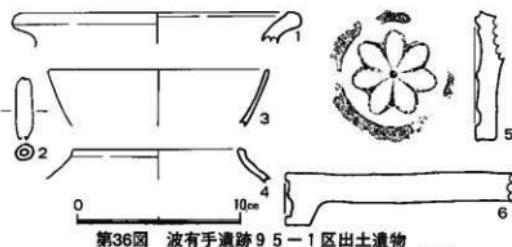
##### b. 遺構（第38図）

##### -土坑-

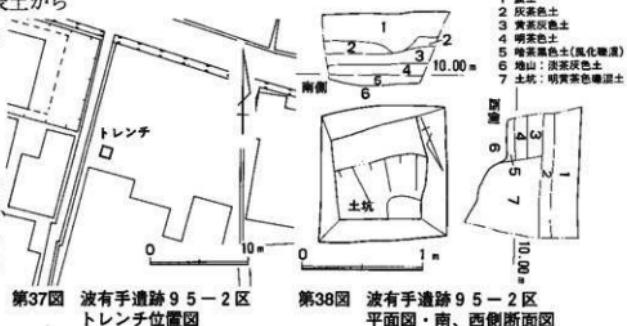
第3層上面で検出した。径80cm以上、深さは55cm、埋土は明黄茶色礫混土で、遺物は含まれていなかつた。



第35図 波有手遺跡95-1区1トレンチ平面図・東側断面図



第36図 波有手遺跡95-1区出土遺物



## 第8節 鳥取南遺跡

鳥取南遺跡は、1988年度に実施された分布調査によって発見周知され、神光寺（蓮池）遺跡の北西部に隣接する位置にある。既往の調査では、弥生時代の後期から中世期にかけての土坑、溝等の遺構を検出し、弥生式土器、土師器、須恵器、瓦器等の遺物が出土している。

### 95-1区

#### a. 調査の概要（第33・39図）

調査区は、本遺跡の北部に位置する。調査は調査区南部に1.2m×2mのトレンチを設定し行った。基本層序は、第1層盛土、第2層耕作土、第3層褐灰色砂質土、第4層明茶黄色土の無遺物層であった。遺構は、落ち込みを検出し、遺物は第2層から須恵器、磁器、第3層から土師器を出土したが、細片の為、図化し得なかった。

#### b. 遺構（第40図）

##### —落ち込み—

第4層上面で検出した。埋土は明褐灰色砂質土、黒茶色土で、深さは20cm以上であった。

### 95-2区

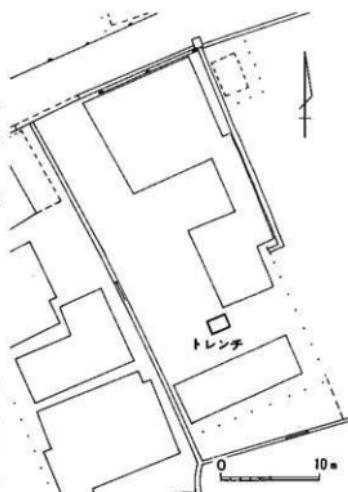
#### a. 調査の概要（第33・41図）

調査区は、本遺跡の北端に位置する。調査は調査区内の北西部に1.3m×1.8mのトレンチを設定し行った。基本層序は、第1層耕作土、第2層灰茶色土、第3層暗灰茶色土、第4層淡黒灰色土、第5層暗茶灰色土、第6層黄色粘土の無遺物層であった。

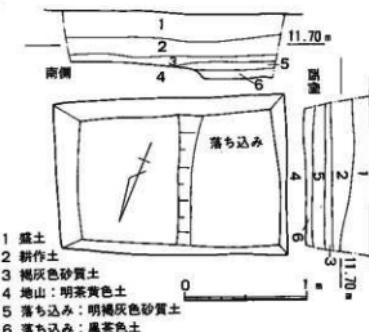
#### b. 遺構（第42図）

##### —土坑—

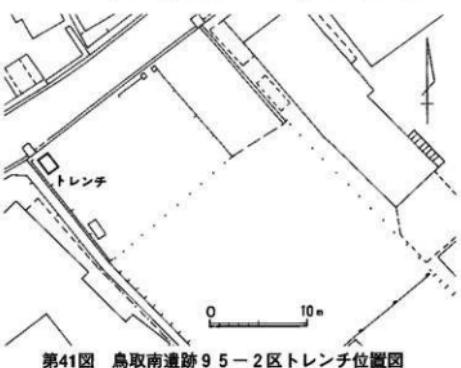
第6層上面で土坑の一部を検出した。遺物は土師器、須恵器、瓦器、蛸壺、二次焼成を受けた平瓦、土錘、瓦質土器、莎入り焼土塊が出土し、中世期のものと思われる。



第39図 鳥取南遺跡 95-1区トレンチ位置図



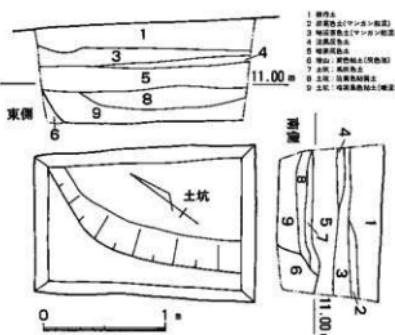
第40図 鳥取南遺跡 95-1区平面図・南、西側断面図



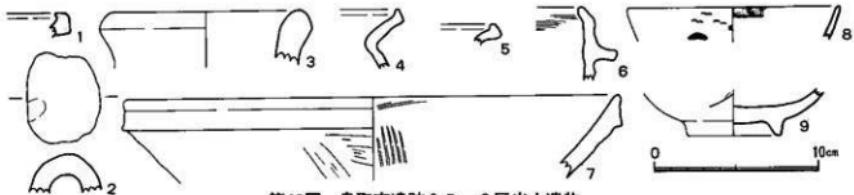
第41図 鳥取南遺跡 95-2区トレンチ位置図

### c. 遺物 (第43図)

第1層より磁器、第3～5層から須恵質土器、土師質土器、莎入り焼土塊等が出土した。1は須恵質土器の壺、3～6は土師質土器で、3は蛸壺、4・5は甕か羽釜の口縁部である。6は羽釜で口縁部が内湾している。2は大型の管状土錘、7は瓦質摺鉢で土坑より、8・9は磁器碗で第1層より出土した。



第42図 鳥取南遺跡 95-2区平面図・東、西側断面図



第43図 鳥取南遺跡 95-2区出土遺物

## 第9節 西鳥取遺跡

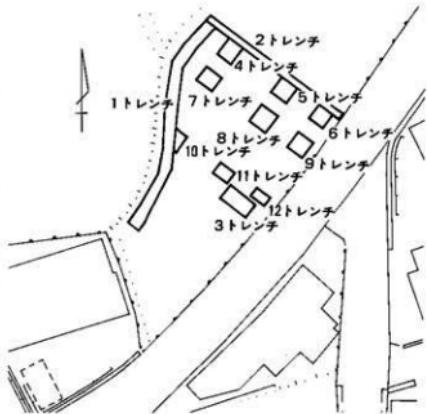
西鳥取遺跡は、鳥取南遺跡の北西部に隣接する位置にあり、鳥取南遺跡と同様1988年度に実施された分布調査によって発見周知された。既往の調査では、ピット、溝等の遺構、須恵器、土師器、中世期の土器（瓦器、蛸壺等）や瓦等の遺物が検出されている。

### 95-1区

#### a. 調査の概要 (第33・44図)

調査区は、本遺跡のほぼ中央部に位置する。調査は1～12トレンチを設定し行った。

基本層序は、第1層耕作土、第2層床土以下、第3層明黄灰色粘土の無遺物層であった。遺物は、耕作土より土師器、瓦、陶磁器、床土より土師器、須恵器、蛸壺、瓦、暗灰色砂質土より土師器、須恵器、瓦器、陶器、磁器、青磁等が出土した。



第44図 西鳥取遺跡 95-1区トレント位置図

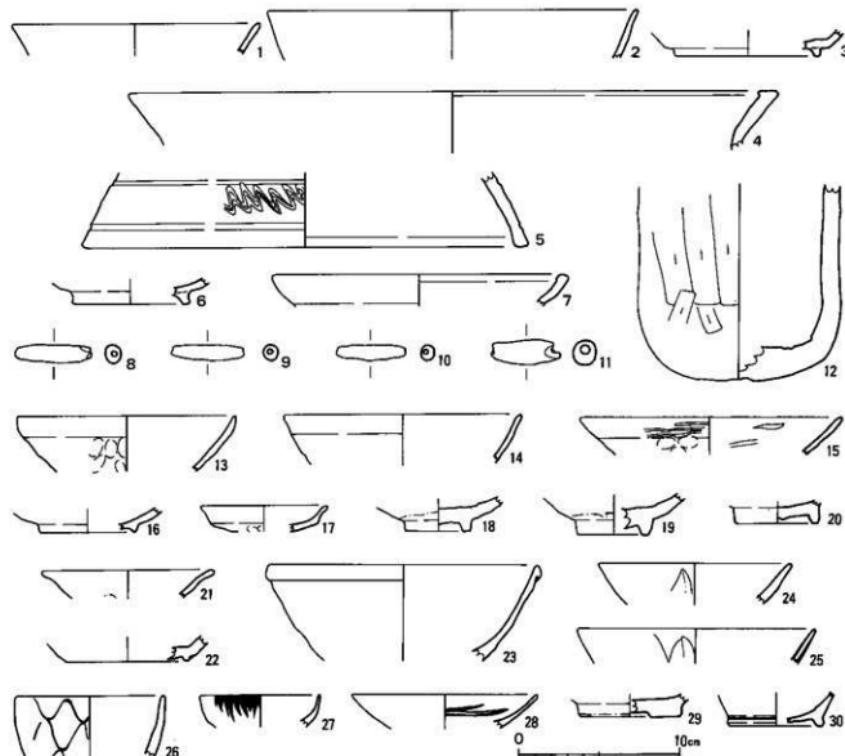
b. 遺構（第45図）

遺構は、2・4・5トレンチを除いたすべてのトレンチで落ち込みのような形跡を確認し、最も深いところで地山面から60cmを呈した。埋土は、暗灰色砂質土、明灰白色砂、暗灰茶色砂質土、灰色砂質土、暗茶灰色土であった。

c. 遺物（第46図）

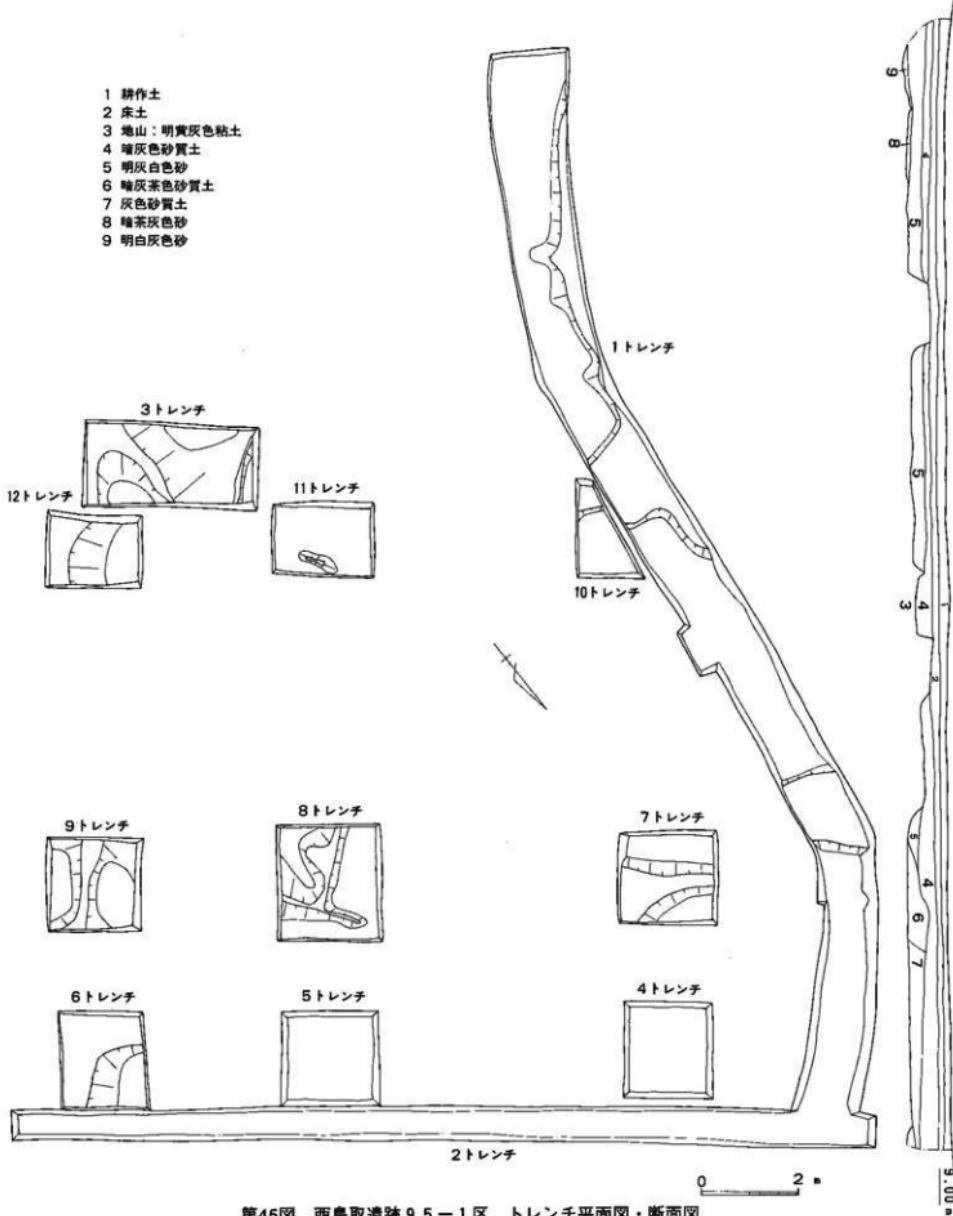
1～5は須恵器で、1・2は壺身の口縁部、3は壺身の底部、4は甕の口縁部、5は器台の脚部、6・7は土師器で、6は皿の底部、7は甕の口縁部、8～11は土師質管状土錐、12は土師質蜻蛉の底部、13～17は瓦器で13～15は塙の口縁部、16は塙の底部、17は小皿の口縁部、18～22は陶器で、18～20は塙の高台部、21は皿の口縁部、22は皿の高台部、23は白磁碗の口縁部、24・25は青磁碗の口縁部、26～30は伊万里の染め付けで、26は碗の口縁部、27は仏飯器の口縁部と思われる。28は皿の口縁部、29は皿の高台部、30は瓶の底部と思われる。

床土から20・27、暗灰茶色砂質土から18、灰色砂質土から2・5・19・21・28・29、明灰白色砂から1・14、暗灰色砂質土から3・4、6～13、15～17、22～25、30が出土した。

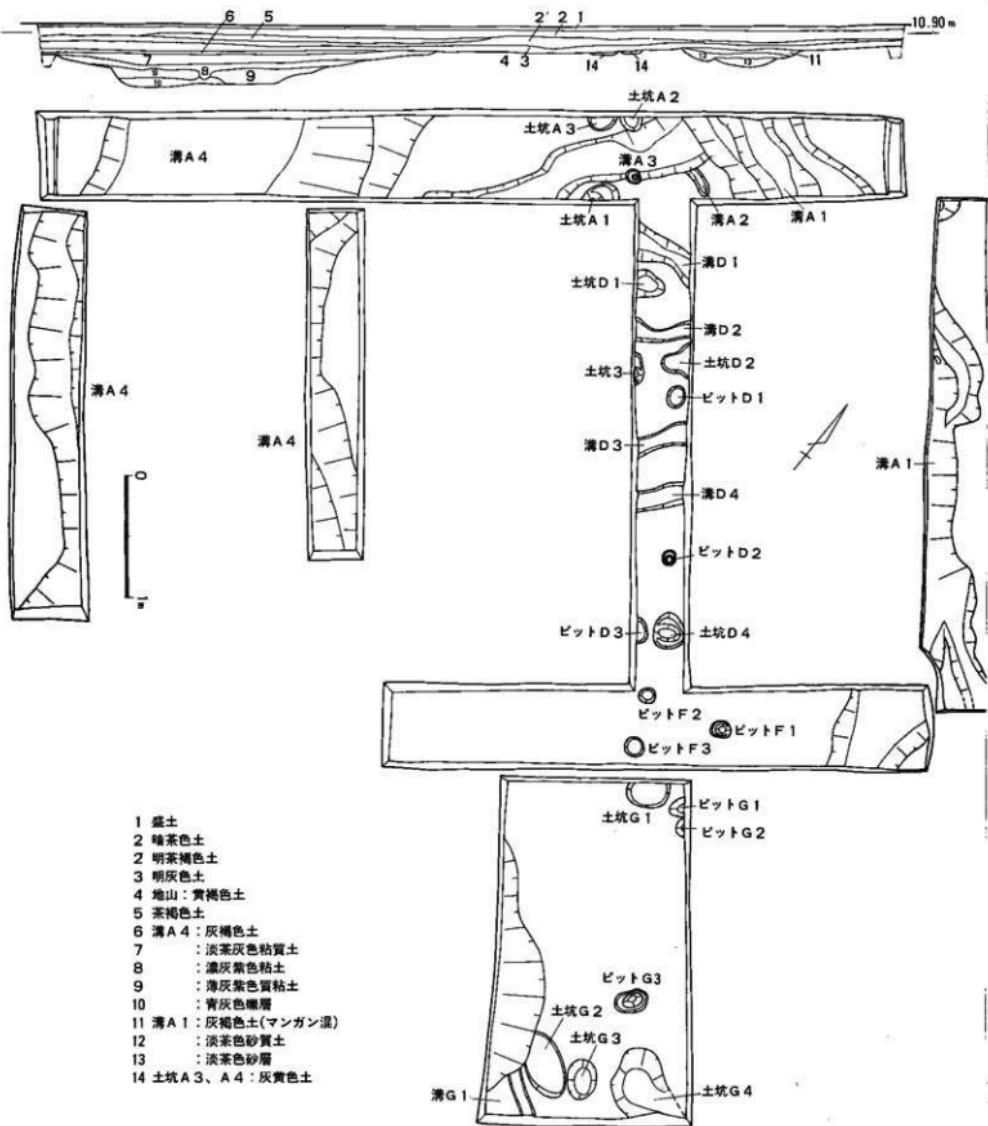


第46図 西鳥取遺跡 9 5-1 区出土遺物

- 1 耕作土
- 2 床土
- 3 地山：明黃灰色粘土
- 4 雜灰色砂質土
- 5 明灰白色砂
- 6 噴灰茶色砂質土
- 7 灰色砂質土
- 8 噴茶灰色砂
- 9 明白灰色砂



第45図 西鳥取遺跡 95-1区 トレンチ平面図・断面図



第49図 箱作今池遺跡 9-4-3区 トレンチ平面図・北側断面図

## 第10節 箱作今池遺跡

箱作今池遺跡は、市域の北西部に位置し、茶屋川とその支流飯ノ峯川が形成する扇状地に拡がる。既往の調査では、遺跡の海岸に近い北側から主に中世期のものが、南側からは、古墳時代～古代末期頃の遺構、遺物が確認されている。

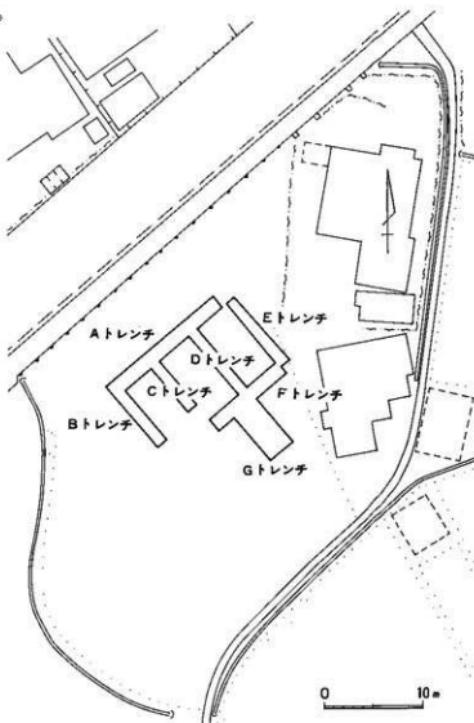
### 94-3区

#### a. 調査の概要（第47・48図）

本調査区は箱作今池遺跡のほぼ中央部、本市が進める土地区画整理事業地内に位置する。建築予定建物の基礎部分について、北側から任意にA～Gトレンチとして設定し、調査を実施した。盛土以下の基本層序は、暗茶色土、明茶褐色土、明灰色土、黄褐色土の無遺物層であった。遺構としては、これまでの調査で確認されている本遺跡内を縦断している、幅5m程度の比較的大きな溝をはじめとして、幅数cm～1.5m程度の溝を数条、ピット等を検出した。遺物は須恵器、土師器、瓦器等が検出された。下記のように、出土遺物のほとんどは古代末期～中世中期のものであり、付近の遺物包含層の堆積もこの頃と想定される。



第47図 箱作今池遺跡調査区位置図



第48図 箱作今池遺跡94-3区トレンチ位置図

b. 遺構（第49図）

-溝A 1-

Aトレーニチの東側部分からE・Fトレーニチの東端に南北方向にのびる溝。幅約2m、深さ30cmを呈する。埋土の最下層が砂層であることからかなりの流水があったものと思われる。遺物としては、土師器、瓦器、土師質土器が出土した。このことから中世期のものと思われる。

-溝A 4-

Aトレーニチ西端部からB・Cトレーニチをかすめ、Gトレーニチの西端に延びる。上述の本遺跡内を縦断している溝と同一のものと思われる。遺物は埋土の最上層から数点の瓦器、土師質土器が検出されたのみで、埋土の下層から遺物は確認されておらず、明確な時期は分からぬが、中世期以前には、ほぼ埋没していたと思われる。

-溝A 2・3、D 1～D 4、G 1-

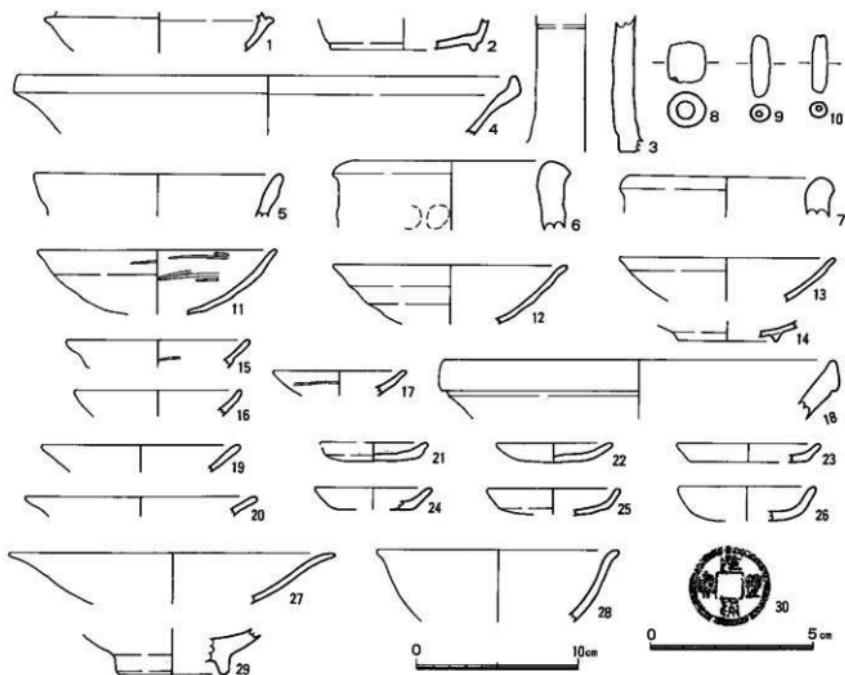
いずれも幅1m以下、深さ数cmのもので、鋤溝等耕作に伴うものと思われる。

-ピット群-

径数十cm程度のものを検出したが、調査トレーニチ内では明確に並ぶものが確認できなかつた。

-土坑A 1～A 3、D 1～D 3、G 1～G 4-

A・D・Gトレーニチで検出されたが、いずれも検出面からの深さが数cmのものであった。



第50図 箱作今池遺跡94-3区出土遺物



第51図 箱作今池遺跡 95-1区、95-3区、95-4区、95-6区トレンチ位置図

### c. 遺物（第50図）

1～3は須恵器、4は東播系須恵質土器のこね鉢。5は製塙土器の口縁部と思われる。6・7は土師質の蛸壺、8～10は土師質の管状土錐である。11～14は瓦器塊。15～17は瓦器皿。18は瓦質土器の鉢。19～26はいずれも土師質の皿であるが、19はいわゆる白土器である。27は白磁、28・29は青磁碗で、いずれも舶載品である。30は「元豊通宝」。初鑄が1078年の北宋錢である。以上の遺物は、すべて包含層中からの出土で、上述の遺構から図化できる遺物は出土しなかった。

## 95-1区

### a. 調査の概要（第51図）

調査区は、本遺跡の北部、現在の海岸線より約120mの地点に位置する。調査は、調査区の北部に1m×2mのトレンチを設定し実施した。基本層序は、第1層盛土、第2層暗茶灰色砂質土、第3層灰茶色砂質土、第4層淡黃灰色粘質土、第5層黄茶色土の無遺物層であった。遺構は、第4層上面で溝1を検出した。遺物は、第1層から蛸壺、磁器、第2層から土師質土器、第3層から土師器、瓦器が出土した。

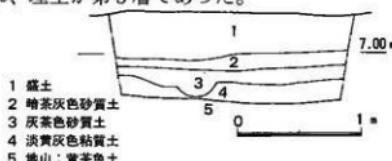
### b. 遺構（第52図）

—溝—

幅30cm、深さ15cmで、第4層上面で検出され、埋土が第3層であった。

### c. 遺物（第53図）

1は瓦器塊の口縁部、2は磁器の皿の口縁部で、1は第4層、2は第2層から出土した。



第52図 箱作今池遺跡95-1区北側断面図

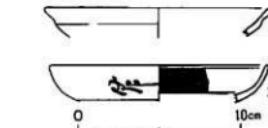
## 95-3区

### a. 調査の概要（第51・54図）

調査区は95-1区の北部に位置する。調査は調査区内に1m×2mのトレンチを設定し行った。基本層序は、第1層盛土、第2層淡黃茶色礫混土、第3層淡茶黄色礫混土、第4層淡灰黃茶色風化礫混土の無遺物層であった。遺構は検出されなかった。遺物は、第2層淡黃茶色礫混土から土師器、土師質管状土錐、磁器が出土した。

### b. 遺物（第55図）

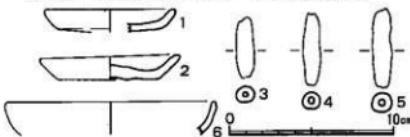
遺物は、第2層淡黃茶色礫混土から土師器、土師質管状土錐、磁器が出土したが、図化し得たのは、以下の6点であった。1・2は土



第53図 箱作今池遺跡95-1区出土遺物



第54図 箱作今池遺跡95-3区北側断面図



第55図 箱作今池遺跡95-3区出土遺物

師質の小皿、3～5土師質管状土錐、6は磁器の染め付け碗の口縁部である。

### 95-4区

#### a. 調査の概要（第51・56図）

本調査区は箱作今池遺跡の北端部に、海岸線より50m余りの地点に位置する。調査は、調査区内に0.8m×1m及び1.2m×1.2mのトレンチを設定して実施した。基本層序は、図示の通りである。両トレンチから遺構は検出されなかった。遺物は、炮烙、瓦等が出土した。

#### b. 遺物（第57図）

図示した遺物は土師質炮烙1点のみである。

1トレンチから出土した。

### 95-6区

#### a. 調査の概要（第51図）

調査区は95-4区北西部に位置する。調査は、調査区内に1m×2mのトレンチを設定し実施した。現在の地表面より1m程度掘削したが、近年の盛土であった。

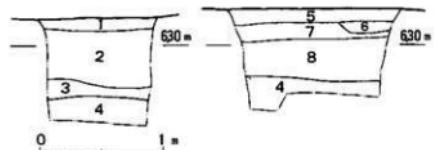
#### b. 遺物（第58図）

遺物は、調査区において、蜻壺、瓦、土師質管状土錐、莎入り焼土塊等を表採した。図化し得たのは以下の4点であった。1は蜻壺ではほぼ完形で先の丸くなっているタイプのものである。2・3は土師質管状土錐、4は磁器の染め付けの碗であった。

## 第11節 田山遺跡

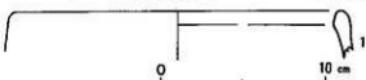
田山遺跡は、市域の平野部から海岸部へ拡がる遺跡である。田山遺跡は、本市の北西部の海岸段丘に位置する。既往の調査によると、縄文時代の石鏃から近世期の陶器・磁器にいたるまで様々な遺物が出土している。特質を揚げてみると、奈良時代としては、溝、井戸等の遺構を検出し、須恵器、土師器等の生活雑器に混じって、製塩土器、円面硯、墨書き土器等が出土している。

中世になると住居跡、蜻壺・土錐を焼いたと考えられる遺構、土師器等の生活雑器や、蜻壺、土錐等の漁撈遺物に混じって輸入陶磁器（青磁、白磁等）が出土している。

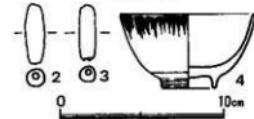
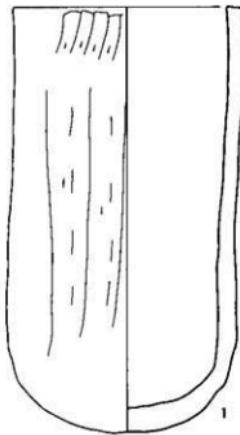


1 明黄茶色土  
2 喜茶色土(黄色粘土ブロック含む)  
3 深茶色土  
4 地山: 茶色礫混土(風化礫多量に含む)  
5 喜茶色土  
6 白色砂層(貝殻・丸石含む)  
7 深茶色砂質土  
8 茶色土(風化礫含む)

第56図 箱作今池遺跡95-4区  
1トレンチ西側断面図 2トレンチ東側断面図



第57図 箱作今池遺跡95-4区出土遺物



第58図 箱作今池遺跡  
95-6区出土遺物

#### 94-4区

##### a. 調査の概要（第59・60図）

調査区は田山遺跡の北端部で、海岸段丘の縁辺部に位置する。調査は調査区の西部に1m×2.8mのトレンチを設定して行った。基本層序は第1層盛土、第2層耕作土、第3層灰色砂混シルト、第4層黄灰色砂混シルト、第5層黄灰色粘質土、第6層黄色砂混粘質土の無遺物層であった。

##### b. 遺構（第61図）

###### —溝—

第5層上面で検出した。幅30cm以上、深さ10cm以上を測る。埋土は黄灰色粘土であり、土坑1と同じ遺構とも考えられる。須恵器、瓦器、製塩土器、炭化物が出土した。

###### —土坑1—

第5層上面で検出した。深さ15cm以上を測る。不定形土坑である。第5層上面で検出され、埋土は黄灰色粘土である。土師器、瓦器、製塩土器が出土した。5は瓦器小皿である。

###### —土坑2—

幅95cm、深さ3cm以上を測る。第6層上面で検出され、埋土は淡灰色砂混シルトである。遺物は出土しなかった。

###### —土坑3—

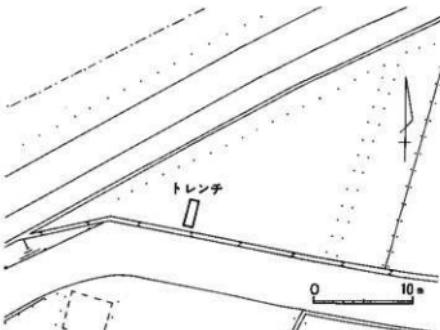
幅20cm、長さ60cm以上を測る。第6層上面で検出され、埋土は土坑2と同じ淡灰色砂混シルトである。遺物は出土しなかった。

###### —ピット1—

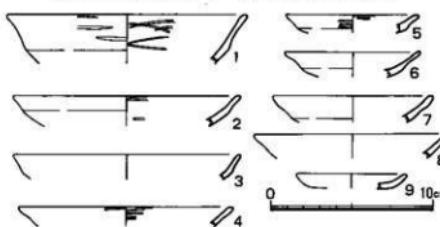
径20cm、深さ8cmである。第5層上面で検出した。埋土は黄灰色粘土で土師器、瓦器が出土したが図示し得なかった。



第59図 田山遺跡調査区位置図



第60図 田山遺跡94-4区トレンチ位置図



第62図 田山遺跡94-4区出土遺物

## - ピット 2 -

径40cm、深さ8cmである。第5層上面で検出した。埋土は黄灰色粘土で、2の瓦器塊の口縁部が出土した。

### c. 遺物（第62図）

遺物は第2層より磁器、第3層より土師質土器、白土器、莎入焼土塊が出土し、第4層より須恵器、瓦器、製塙土器、靖壺、莎入焼土塊、炭化物、第5層より土師質土器、須恵質土器、瓦器が出土した。図化し得たのは以下の遺物であった。1～7は瓦器で1～4は塊の口縁部、5～7は小皿の口縁部である。8・9は土師質土器で8は塊の口縁部、9は小皿の口縁部である。8は第3層、3・6・7は第4層、1・9は第5層から出土した。

## 95-1区

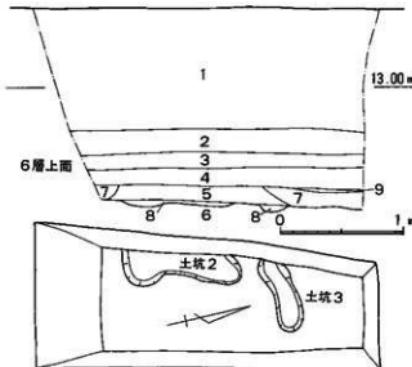
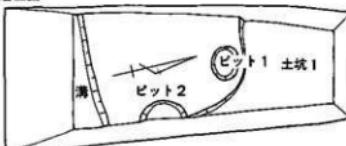
### a. 調査の概要（第59・63・64図）

調査区は、本遺跡の南西部に位置する。調査は調査区内に1m×1mのトレンチを2ヶ所設定して実施した。基本層序は、第1層耕作土、第2層床土以下、第3層灰褐色砂質土、第4層明黄灰色粘土の無遺物層であった。遺構は検出されなかった。

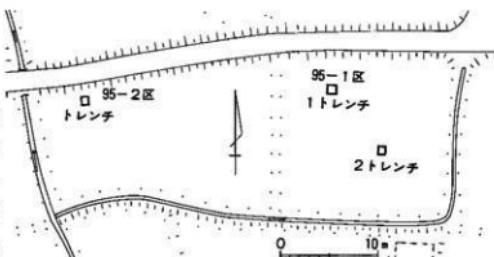
### b. 遺物（第65図）

遺物は第3層より、土師器、須恵器、瓦器、製塙土器、磁器等が出土したが、図化し得たのは、瓦器塊の底部の1点のみであった。

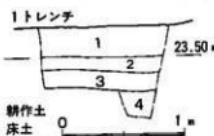
5層上面



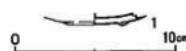
第61図 田山遺跡 94-4 区平面図・西側断面図



第63図 田山遺跡 95-1区・95-2区トレンチ位置図



第64図 田山遺跡 95-1区 1トレンチ北側断面図

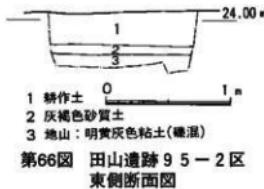


第65図 田山遺跡 95-1区出土遺物

## 95-2区

### a. 調査の概要（第59・63・66図）

調査区は、95-1区に隣接する場所に位置する。調査は、調査区内に1m×1mのトレンチを設定し実施した。基本層序は、第1層耕作土、第2層灰褐色砂質土、第3層明黄灰色粘土の無遺物層であった。遺構は検出されず、遺物は第1層より、近現代と考えられる摺鉢が出土した。



第66図 田山遺跡95-2区  
東側断面図

## 第4章　まとめ

以上、今年度の調査の概要について触れた。ほとんどの調査が十数m<sup>2</sup>～數m<sup>2</sup>程度の極めて小規模な調査ばかりであったが、西鳥取遺跡（95-1区）と箱作今池遺跡（94-3区）で比較的まとまった調査を実施した。この2地区の調査について下記に述べ、まとめにかえたい。

前者の調査では、不定形の落ち込みを確認した。この落ち込みは、粘土探掘坑ではないかと考えている。また、特筆事項としては、白磁・青磁の碗が出土していることが挙げられる。船載陶磁器については、市内では田山遺跡や箱作今池遺跡等の海浜部に位置する遺跡で出土しているが、当遺跡では初めてのものである。当遺跡の性格を考える上でのひとつの資料となろう。

また、箱作今池遺跡（94-3区）の調査では、同遺跡を縦断する溝が確認された。本文中でも触れたように、この溝からは遺物が検出されておらず、その時代や性格は明らかではない。同遺跡内では、区画整理事業に伴い（財）大阪府埋蔵文化財調査研究センターが実施しているが、この調査でも遺跡内を縦横に走る幅十数mの溝が確認されており、それらとの関連性を検討する必要がある。これについては、同センターの報告を待ちたい。

まとめとしては、非常に簡単雑駁になった。冒頭にも述べたように私たちが実施している行政発掘調査は、最低限の記録保存のための調査であるため、そのほとんどが極めて小規模なものになっている。しかし、文化財保護の観点からは、今後もこれらの「点」の調査を地道に続けていく必要があると考えている。



尾崎海岸遺跡 95-1区トレンチ全景（西より）



福島遺跡 95-1区トレンチ全景（東より）



尾崎海岸遺跡 95-3区トレンチ全景（東より）



馬川遺跡 95-2区トレンチ全景（北より）



神光寺(蓮池)遺跡94-3区トレンチ全景(西より)



神光寺(蓮池)遺跡95-1区1トレンチ全景(東より)



神光寺(蓮池)遺跡94-3区溝北側断面



神光寺(蓮池)遺跡95-2区3トレンチ全景(南より)



神光寺(蓮池)遺跡 95-3区1トレンチ全景(西より)



向出遺跡 95-1区1トレンチ全景(西より)



下出遺跡 94-5区トレンチ全景(南より)



波有手遺跡 95-1区1トレンチ全景(西より)



波有手遺跡 95-2区トレンチ全景（南より）



鳥取南遺跡 95-2区トレンチ全景（北より）



鳥取南遺跡 95-1区トレンチ全景（北より）



西鳥取遺跡 95-1区3トレンチ全景（南より）



箱作今池遺跡 9 4—3 区 G 区全景（南より）



箱作今池 9 5—3 区 トレンチ全景（南西より）



箱作今池遺跡 9 5—1 区 トレンチ全景（西より）



箱作今池遺跡 9 5—4 区 2 トレンチ全景（北より）



箱作今池遺跡 95-6区トレンチ全景（北より）



田山遺跡 95-1区トレンチ全景（南より）



田山遺跡 94-4区トレンチ全景（北より）



田山遺跡 95-2区トレンチ全景（西より）



尾崎海岸遺跡 95-1区出土遺物



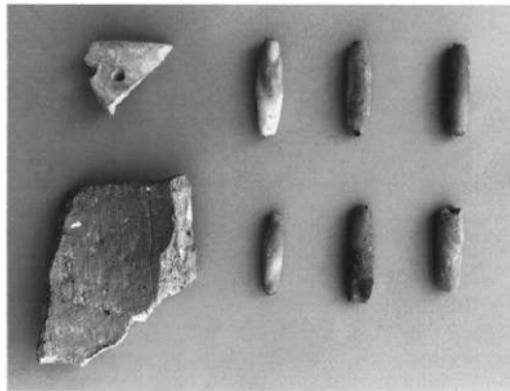
尾崎海岸遺跡 95-1区出土遺物



尾崎海岸遺跡 95-1区出土遺物



尾崎海岸遺跡 95-1区出土遺物



尾崎海岸遺跡 95-1区出土遺物



尾崎海岸遺跡 95-1区出土遺物



尾崎海岸遺跡 9 5—3 区出土遺物



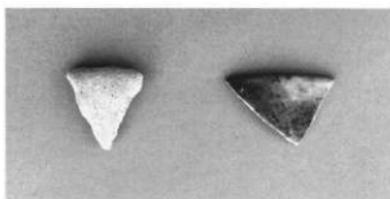
尾崎海岸遺跡 9 5—3 区出土遺物



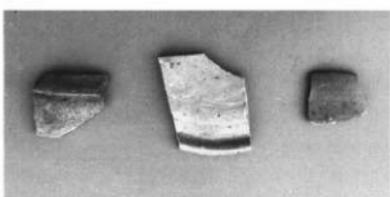
尾崎海岸遺跡 9 5—3 区出土遺物



尾崎海岸遺跡 9 5—3 区出土遺物



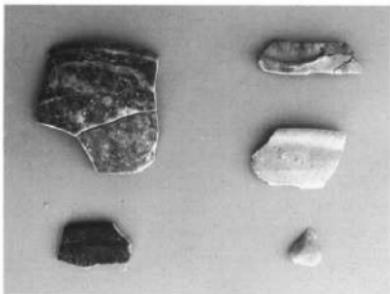
神光寺（蓮池）遺跡 9 5—1 区出土遺物



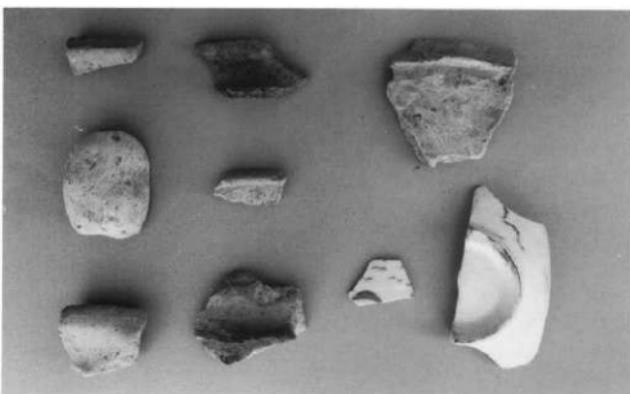
馬川遺跡 9 5—2 区出土遺物



神光寺（蓮池）遺跡 9 5—2 区出土遺物



神光寺（蓮池）遺跡 9 5—2 区出土遺物



鳥取南遺跡 95-2区出土遺物



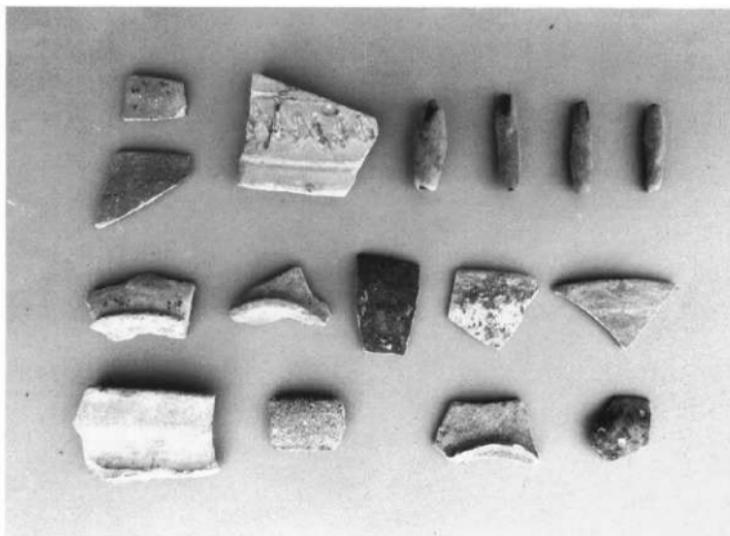
波有手遺跡 95-1区出土遺物



波有手遺跡 95-1区出土遺物



西鳥取遺跡 95-1区出土遺物



西鳥取遺跡 95-1区出土遺物



西鳥取遺跡 95-1区出土遺物



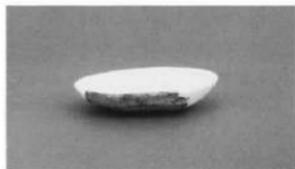
箱作今池遺跡 9 4 — 3 区出土遺物



箱作今池遺跡 9 4 — 3 区出土遺物



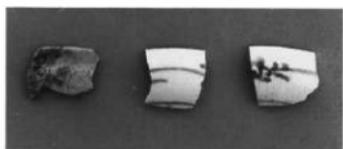
箱作今池遺跡 9 4 — 3 区出土遺物



箱作今池遺跡 9 4 — 3 区出土遺物



箱作今池遺跡 9 4—3 区出土遺物



箱作今池遺跡 9 5—1 区出土遺物



箱作今池遺跡 9 4—3 区出土遺物



箱作今池遺跡 9 5—3 区出土遺物



箱作今池遺跡 9 5—6 区出土遺物



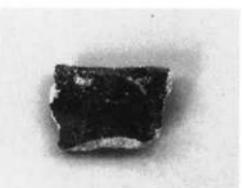
箱作今池遺跡 9 5—6 区出土遺物



箱作今池遺跡 9 5—3 区出土遺物



田山遺跡 9 5—1 区出土遺物



箱作今池遺跡 9 5—4 区出土遺物



箱作今池遺跡 9 5—6 区出土遺物



田山遺跡 9 4—4 区出土遺物

## 報告書抄録

| ふりがな          | ほんなんしまいぞうぶんをさいはっくつちょうきがいよう            |  |  |   |  |                              |                            |
|---------------|---------------------------------------|--|--|---|--|------------------------------|----------------------------|
| 書名            | 阪南市埋蔵文化財発掘調査概要 11                     |  |  |   |  |                              |                            |
| 副書名           |                                       |  |  |   |  |                              |                            |
| 卷次            |                                       |  |  |   |  |                              |                            |
| シリーズ名         | 阪南市埋蔵文化財報告                            |  |  |   |  |                              |                            |
| シリーズ番号        | 21                                    |  |  |   |  |                              |                            |
| 編著者名          | 三好義三・田中早苗・上野仁                         |  |  |   |  |                              |                            |
| 編集機関          | 阪南市教育委員会社会教育課                         |  |  |   |  |                              |                            |
| 所在地           | 599-02 大阪府阪南市尾崎町35-1 TEL 0724-71-5678 |  |  |   |  |                              |                            |
| 発行年月日         | 1996年3月31日                            |  |  |   |  |                              |                            |
| ふりがな<br>所収遺跡名 | ふりがな<br>所在地                           | コード<br>市町村番号   | 北緯<br>地番                                       | 東經<br>地番  | 調査期間   | 調査面積<br>m <sup>2</sup>       | 調査原因                       |
| 尾崎海岸          | 大阪府阪南市<br>尾崎町<br>同上                   | 27232 22   | 342155   | 1351640   | 950424   | 1.5                          | 住宅                         |
| 福島島           | 同上                                    | 27232 22   | 342202   | 1351816   | 950714   | 2.0                          | 住宅                         |
| 馬川            | 下出                                    | 27232 22   | 342131   | 1351508   | 950828   | 6.0                          | 住宅                         |
| 神光寺<br>(蓮池)   | 右田<br>同上<br>同上<br>同上                  | 27232 22<br>27232 22<br>27232 22<br>27232 22             | 342102<br>342125<br>342052<br>342110           | 1351651<br>1351738<br>1351552<br>1351730            | 950302<br>950420<br>950602<br>951002           | 3.7<br>10.5<br>18.1<br>2.0   | 住宅<br>住宅<br>住宅<br>住宅       |
| 下出            | 鳥取中                                   | 27232 22   | 342117   | 1351658   | 950310   | 4.5                          | 住宅                         |
| 向出            | 自然田                                   | 27232 22   | 342120   | 1351618   | 951004   | 3.1                          | 住宅                         |
| 波有手           | 鳥取<br>同上                              | 27232 22<br>27232 22                                     | 342103<br>342103                               | 1351641<br>1351700                                  | 950410<br>951017                               | 5.4<br>12                    | 住宅<br>住宅                   |
| 鳥取南           | 同上<br>同上                              | 27232 22<br>27232 22                                     | 342105<br>342106                               | 1351821<br>1351731                                  | 950427<br>950425                               | 24<br>23                     | 住宅<br>住宅                   |
| 西鳥取           | 同上                                    | 27232 22   | 342116   | 1351401   | 950420   | 87.0                         | 住宅                         |
| 箱作今池          | 箱作<br>同上<br>同上<br>同上<br>同上            | 27232 22<br>27232 22<br>27232 22<br>27232 22<br>27232 22 | 342016<br>342044<br>342043<br>342041<br>342040 | 1351430<br>1351340<br>1351351<br>1351344<br>1351351 | 950506<br>950526<br>950607<br>950810<br>951107 | 68.0<br>20<br>20<br>32<br>20 | 住宅<br>住宅<br>住宅<br>住宅<br>住宅 |
| 田山            | 同上<br>同上<br>同上                        | 27232 22<br>27232 22<br>27232 22                         | 342022<br>342006<br>342006                     | 1351440<br>1351459<br>1351452                       | 950313<br>950529<br>950825                     | 28<br>20<br>1.0              | 住宅<br>住宅<br>住宅             |

| 所収遺跡名       | 種別              | 主な時代 | 主な遺構            | 主な遺物  | 特記事項 |
|-------------|-----------------|------|-----------------|---|------|
| 尾崎海岸        | 生産遺跡            | 不明   |                 | 土師質土器・婧壺・陶器・瓦                                   |      |
| 同上          | 同上              | 不明   | 土坑              | 土師質土器・婧壺・有溝土錐<br>陶器・瓦                           |      |
| 福島          | 散布地             | 不明   |                 | 磁器  |      |
| 馬川          | 同上              | 不明   |                 | 土師器・須恵器・瓦器                                      |      |
| 神光寺<br>(蓮池) | 散布地 社寺<br>その他の墓 | 不明   | 溝               | 土師質土器   |      |
| 同上          | 同上              | 不明   | 溝 ピット2<br>落ち込み  | 土師器・須恵器・瓦器・製塩土器<br>磁器                           |      |
| 同上          | 同上              | 不明   |                 | 土師器・須恵器・瓦器<br>土師質土器・磁器                          |      |
| 同上          | 同上              | 不明   |                 | 弥生式土器   |      |
| 下出          | 同上              | 不明   |                 |   |      |
| 向出          | 同上              | 不明   | 落ち込み            | 須恵器・瓦質土器・土師質土器                                  |      |
| 波有手         | 同上              | 不明   | ピット             | 須恵器・陶器・磁器・土師質土器<br>瓦                            |      |
| 同上          | 同上              | 不明   | 土坑              | 磁器  |      |
| 鳥取南         | 同上              | 不明   | 落ち込み            | 弥生式土器・土師器・須恵器<br>瓦器                             |      |
| 同上          | 同上              | 不明   | 土坑              | 須恵器・須恵質土器・土師質土器<br>婧壺・磁器・管状土錐                   |      |
| 西鳥取         | 同上              | 不明   |                 | 土師器・須恵器・婧壺・瓦器<br>陶器・磁器                          |      |
| 箱作今池        | 同上              | 不明   | 溝9 土坑10<br>ピット群 | 土師器・須恵器・製塩土器・婧壺<br>管状土錐・瓦器・瓦質土器<br>白土器・青磁・白磁・貨錢 |      |
| 同上          | 同上              | 不明   | 溝               | 土師器・婧壺・瓦器・磁器                                    |      |
| 同上          | 同上              | 不明   |                 | 土師器・管状土錐・磁器                                     |      |
| 同上          | 同上              | 不明   |                 | 土師質土器・瓦   |      |
| 同上          | 同上              | 不明   |                 | 婧壺・瓦・管状土錐・磁器                                    |      |
| 田山          | 同上              | 不明   | 溝 土坑3<br>ピット2   | 土師質土器・白土器・須恵器<br>製塩土器・須恵質土器・瓦器                  |      |
| 同上          | 同上              | 不明   |                 | 土師器・須恵器・瓦器・製塩土器                                 |      |
| 同上          | 同上              | 不明   |                 | 摺鉢  |      |

阪南市埋蔵文化財報告XXI

阪南市埋蔵文化財発掘調査概要XI

1996年3月

発行：阪南市教育委員会社会教育課  
大阪府阪南市尾崎町35の1

印刷者：西岡総合印刷株式会社  
和歌山市吹屋町5丁目54